

ERINA・JRIワークショップの開催

ERINA調査研究部研究主任 中島朋義

8月19日、韓国の静石物流通商研究院（英語名称：Jungseok Research Institute of International Logistics and Trade、略称JRI）の研究スタッフがERINAを訪問し、両研究機関の合同ワークショップが開催された。

JRIは2003年に、韓国の運輸物流関連の大手企業グループである韓進グループの支援によって、仁川広域市に立地する総合大学、仁荷大学校に併置する形で設立された研究機関である。国際物流と通商を研究領域とし、北東アジアにおける経済協力も関連する研究分野として重視している。研究体制は7～8名程度の専任研究スタッフを擁する他、仁荷大の経済学部、通商学部、物流専門大学院などの多くの教員が研究スタッフを兼任している。

昨年、FTAなど通商政策を専門とする鄭仁教経済学部教授（写真右から二人目）がJRIの院長に就任し、現在、研究機関としての活動内容をさらに高度化することを目指している。鄭院長は以前、政府系シンクタンクである対外経済政策研究院（KIEP）の研究委員をつとめ、韓・チリFTA、日韓FTAなど、韓国のFTA交渉に専門家として参画してきた。また、二回にわたって北東アジア経済発展国際会議（NICE）に、パネリストとして参加するなど、こ

れまでもERINAの研究活動に協力いただいている研究者である。

今回のワークショップでは、通商と物流の二つのセッションが設けられた。

通商セッションでは、鄭院長が、“A Critical Review on Regional Integration Processes in East Asia”と題し、最近の東アジアの経済統合の動きを包括的な視点から整理、分析した内容を報告した。これに続いて中島から、“East Asian Economic Integration and US East Asia Trade Policy”という内容で、東アジア経済統合と、米国の対外政策の関係に焦点を当てた報告を行った。二つの報告は期せずして内容的に補完性を持ち、フロアからの活発な質疑も含めて、充実した議論が行われた。

物流セッションでは、まず金泰勝 仁荷大物流専門大学院教授から、“Effects of Low Cost Carrier's Entry on Airline Rivalry”と題し、韓国の航空規制緩和による新規航空会社の参入の経済効果に関する分析結果が報告された。続いて新井洋史 ERINA調査研究部部長代理から、“Development of International Transportation Corridors in Northeast Asia”と題し、ERINAのこれまでの北東ア

ジアの物流問題に関する研究成果と、政策提言を踏まえた報告が行われた。これに対しJRI側の参加者から、北東アジアの現状について、多くの質問、意見が出され、内容の濃い議論が交わされた。

今回のワークショップはERINAとJRIが組織として共同

して行った初めての活動である。この催しを通じ、両機関の研究領域が多くの部分で重なり、また補完性を持つことが認識された。北東アジアの物流及び通商問題に取り組む研究機関として、両者の協力関係がさらに緊密さを増し、永続していくことを期待する。

